

## 令和3年度 第2回 長浜市下水道事業審議会 会議録

日 時:令和3年8月20日(金) 午前10時00分から午前11時20分まで

会 場:長浜市役所 1階 多目的ルーム4

出席者:委員6名

横山幸司会長、中井宣夫委員、伊藤誠哉委員、嶋田健委員、荒木まつゑ委員、  
横田久子委員  
(欠席2名 北川雅英副会長、竹腰勝子委員)

### 事務局

横山下水道事業部長

下水道総務課

山口課長、雨森課長代理、渡邊係長

下水道施設課

藤田課長、宮部課長代理、西尾副参事、戸田主査

北部振興局 建設課

岡田副参事、浅見主幹

進行:山口下水道総務課長

### 1. 開会(省略)

### 2. 部長挨拶(省略)

### 3. 議事

#### (1)第1回審議会会議録の確認について

・特に意見なし。

#### (2)農業集落排水処理のあり方について(説明)

・第1回審議会時の意見について

事務局から資料(農業集落排水処理のあり方について)1~17ページを説明

#### 中井委員から日野町での農業集落排水事業の取組について補足説明

中井委員	<p>日野町の場合は、整備当初の昭和58年から、職員1人が資格をとり、自前で維持管理を行っているので、基本的に維持管理費用の中に業者への委託料はない。</p> <p>下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法(合特法)の関係で、業者への委託料は一般競争入札にかかる金額よりも高くなる傾向があるので、日野町では、職員で管理を行っている。</p> <p>また、汚泥の引き抜きについては、1m<sup>3</sup>当たりの処理単価が高いため、日野町では汚泥を肥料化し、それを地域住民に配布している。</p> <p>維持管理の費用を安くすることによって、下水の使用の方からの使用料を低くしている。</p> <p>基本的に下水道の維持管理費用の多くを占めるのは、汚泥引抜等の委託料、人件費、電気代と修繕費であり、そのうち動力費については、電気の自由化等、まだまだ検討の余地がある。</p> <p>日野町にも公共下水道のエリアがあり、そのエリアの中に農業集落排水も</p>
------	--

	<p>含まれているが、公共下水道に接続しようとする、琵琶湖まで管路を引く必要があり、災害で破綻した場合、すぐに復旧ができないリスクがある。そのため農業集落排水を残しておけば、災害の場合、汚水を管路に溜めてバキューム車で吸い上げて処理場へ運べば処理ができるので、農業集落排水として9施設を残している。</p> <p>このように、その市町の努力次第で維持管理費用を低くすることも可能であると考えている。長浜市の場合は、施設をたくさん抱えているので、日野町のようにするのは難しいと思うが、考え方によって維持管理費用を低くすることは、できないことではないと思う。</p>
--	---

説明の後、次のような意見、質疑がありました。

委員	<p>農業集落排水の処理施設の老朽化に対して、今まで何か対策は行ってきたのか。その場合、補助金等をもらって計画的に行っているのか。</p> <p>また、農業集落排水を公共下水道に接続した場合、昔から農業集落排水の方たちは当初整備時に負担金を一度支払っていると思うが、公共下水道に接続することでまた負担金をとるなら、二重にならないのか。</p>
事務局	<p>施設修繕については、今までは事後修繕のため補助金をもらいながらの計画的な修繕を行ってはいないが、平成29年から機能診断調査を行っており、今後の修繕については計画的に行う予定である。</p>
委員	<p>今までは投資ではなく、維持管理の中で修繕を行ってきたということか。</p>
事務局	<p>お見込みのとおり。</p> <p>また、負担金については、農業集落排水の建設導入時に分担金を納めていただいているが、公共下水道への接続は改良事業であるため、建設導入時のような地元の負担は発生しない。公共下水道には受益者負担金があるが、すでに農業集落排水で徴収しているとみなしているため、新たな負担は発生しない。</p>
委員	<p>それは理解している。私が聞きたいのは、先ほどの説明の中で、新たな整備にかかる負担は、使用料に含めて今後徴収するということであつたので、それだと二重になっているように思う。そう思われる市民の方もおられると思うので、説明できるように整理をしておいて欲しい。</p>
事務局	<p>確かに農業集落排水については、当初整備時に分担金をもらう代わりに、起債償還のための費用は使用料に含まないという構造であつた。しかし、今回の公共下水道の接続については、当初整備の起債償還が全て終わっている地区から行っており、当初整備ではない新たな事業という認識である。そのため、当初整備分の財源からは切り離して考えなければならないので、新たな整備負担については、今後の使用料で徴収するという整理とさせていただいた。</p>

・農業集落排水処理のあり方について

事務局から資料(第1回審議会時の資料)39～52 ページを説明

説明の後、次のような意見、質疑がありました。

委員	<p>前回の質問に対して丁寧に説明をしていただき感謝する。市の考えは理解</p>
----	--

	できた。
委員	<p>前回の審議会の流れでは、統合については基本的に賛成であるが、コストが高く、老朽化が進んだ施設を更新することについては、コストや人口減少のみで判断するのはどうかというのが論点であったと思う。農業集落排水事業と公共下水道事業については公営企業という前提があるため、収益に応じた施設整備をしていくということになる。そのため、人口減少のような具体的な数字を持って、今の時点で判断していくということは仕方がないことだと思う。</p> <p>そこで1点お聞きするが、今後の農業集落排水のあり方については、現時点での状況で計画を作成するという事務局の考えは、言い換えると、この先の状況に応じて見直しもしていくということで理解してよいか。</p>
事務局	<p>お見込みのとおり。</p> <p>農業集落排水の再編については、新たな補助制度ができたことも踏まえて、計画を作成し実施をしていきたいと考えている。実施していく中で基本的にはダウンサイジングになるが、重要なのは変動に対応することだと考えているので、その辺りは十分考慮していきたい。</p>
委員	<p>コストが高いのでコスト削減のためにスリム化していくのは大事であると思うが、過疎地、限界集落という話は、特に都市計画と関係あると思うので、下水道のように都市計画も具体的に話を進めてもらいたい。</p> <p>また、日野町の取組について非常に感銘を受けた。循環型社会というか、私たちの生活に戻ってくるということをしかりと進めていく必要があるということを感じた。</p>
委員	12ページで、彦根市の農業集落排水の規模が小さいのは、浄化槽が多いからか。
事務局	彦根市のほとんどは公共下水道で処理をされており、農業集落排水は郊外のみとなるのでエリアとしては小さくなる。

#### 4. その他(省略)

#### 5. 閉会